

令和7年度 第2回 みえスタディ・チェックの結果について



三重県教育委員会事務局 学力向上推進プロジェクトチーム

令和7年度第2回みえスタディ・チェックの結果をお知らせします。各学校では、授業改善、学習内容の理解・定着、学習習慣等の確立が一層進むよう、結果の活用をお願いします。

目的

- 児童生徒が自らの学習内容の定着状況を確認し、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む。
- 学習指導要領の趣旨や内容に基づき、児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、授業改善及び個に応じた指導の充実等、各学校が組織的かつ継続的なPDCAサイクルを確立し、児童生徒の学ぶ意欲や学力の向上のための取組を促進する。

実施日

令和7年度冬季休業終了後から令和8年2月18日(水)まで

対象学年

小学校第5学年、中学校第2学年

実施教科

国語、算数・数学

実施校数

小学校 第5学年 341校 中学校 第2学年 151校

※対象児童生徒が在籍する全ての小中学校等で実施

各教科の平均正答率・平均無解答率

平均正答率

	小学校	中学校
教科	第5学年	第2学年
国語	45.6%	48.4%
算数・数学	43.7%	51.6%

平均無解答率

	小学校	中学校
教科	第5学年	第2学年
国語	11.23%	6.72%
算数・数学	5.61%	6.02%

みえスタディ・チェックを活用した授業改善を！

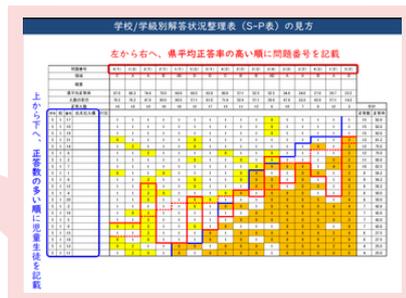
みえスタディ・チェックの実施

学習内容の定着状況を把握・分析

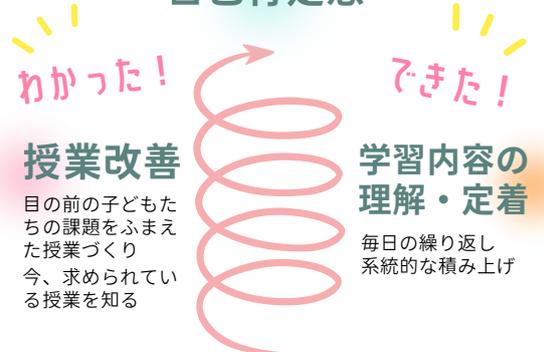
- 県全体(入力校)の状況と自校の結果を比較した分析
- 問題ごとの分析
- S-P表を活用した子ども一人ひとりの学習内容の定着状況を把握・分析

S-P表から分かること

- クラス全体の強み・弱み
- 児童生徒一人ひとりの強み・弱み



自己肯定感



授業改善

目の前の子どもたちの課題をふまえた授業づくり
今、求められている授業を知る

学習内容の理解・定着

毎日の繰り返し
系統的な積み上げ

子どもたちのつまずきを把握

子どもたちの「わからない」を「わかった」「できた」に変える取組

▶▶▶ みえスタディ・チェックを活用した

授業改善のポイントは、2ページから！

▶▶▶ 関連問題の活用

みえスタディ・チェック実施後の結果表から、設問ごとに、正解の場合はさらに難しい問題が、不正解の場合は学習内容を遡った問題が提供されます。



みえの学力県民運動ホームページ S-P表、関連問題の説明資料を掲載しています！



https://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/sensei/kyouin_douga/kyouin_douga.html

平均正答率
(平均正答数)

45.6%
(6.3問/14問)

平均
無解答率

11.23%

改善

が図られた問題
(出題の趣旨)

- 言葉には、相手とのつながりをつくる動きがあることを捉えることができる(1)

平均正答率

46.8%

過去同一問題正答率

38.3%

改善状況

8.5%

課題

が見られた問題
(出題の趣旨)

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる(3)
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる(4)

16.8%

—

—

18.5%

35.9%

-17.4%

各問題の正答率

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	選択	46.8%
	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	選択	78.0%
	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く	記述	36.7%
2	接続語を使って一文を二文に分けて書く	短答	34.1%
	【話を聞いている様子の一部】の A、B に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	選択	40.5%
	示された述語に対する主語を選択する	選択	58.4%
3	【話し合いの様子の一部】における今田さんの発言の理由として適切なものを選択する	選択	68.8%
	【話し合いの様子の一部】で、川口さんが示した表現には、どのような効果があるか適切なものを選択する	選択	52.6%
	【物語】を読んで、「わたし」はなぜそう思ったのか考えを書く	記述	16.8%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
4	【文章2】の [] の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	選択	45.0%
	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	記述	18.5%
5	文脈に沿って漢字を読む(勢い)	短答	67.0%
	文脈に沿って漢字を書く(そうだんしています)	短答	46.6%
	文脈に沿って漢字を書く(きたいしています)	短答	28.6%

授業改善のポイント

具体的な設問例

4二

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうか をみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第5学年及び第6学年】B 書くこと

正答率
18.5%

力 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

- (条件)
- 【文章2】のよさを書く。
 - 【文章2】から言葉や文を取り上げて書く。
 - 六年以上、百字以上(半紙)に書く。
- ※解答は、解答用紙に書きましょう。

(問い) 鳥谷さんは、川口さんと話を合ったことについて、自分の文章のよさについて返り、書くことにしました。あなたが鳥谷さんなどのよさを書きましょう。

4

二 鳥谷さんは、川口さんと、文章2を読み合い、感想を伝え合いました。次の【伝え合いの様子の一部】をよく読み、あとの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

鳥谷さん わたしのがんばろうとしていることが伝わるかな。

川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもとにしているからだね。

鳥谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の段落がいいね。なぜかという、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることがよく伝わってきたよ。

鳥谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。

一 (伝え合いが続く) 一

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

読み手に自分の考えを明確に伝えるためには、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることが必要です。内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かといったことを観点として、文や文章を整えることが大切です。また、互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、他者の文章のよいところを見付けるだけでなく、自分の文章のよいところを見付けることができるようにすることが大切です。

指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切です。自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導すると効果的です。さらに、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

国立教育政策研究所ホームページ

令和4年度
全国学力・学習状況調査
授業アイディア例



「六年生としてがんばりたいことを書こう」

～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける～

「令和4年度全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 (小学校国語)」 P58～61

実施対象学年
第5・6年



<https://www.nier.go.jp/kaiha/tsu/zenkokugakuryoku.html>

平均正答率
(平均正答数)

43.7%
(7.9問/18問)

平均
無解答率

5.61%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

- 方眼上の五つの図形の中から、平行四辺形を選ぶ
7 (1)

平均正答率
61.6%

過去同一問題
正答率
-

改善状況
-

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

- 小数の除法の意味について理解している (3)

25.7%

22.2%

+3.5%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	6+0.5×2の計算をする	短答	59.8%
2	2は5の何倍かを求める	短答	40.9%
3	12÷0.8の式で求められる問題をすべて選ぶ	選択	25.7%
4	色をぬった部分の長さが $\frac{2}{3}$ mのテープを選ぶ	選択	39.7%
5	(1) AとBの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	選択	40.8%
	(2) 二人の速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	選択	37.7%
6	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	短答	44.0%
7	(1) 方眼上の五つの図形の中から、平行四辺形を選ぶ	選択	61.6%
	(2) 対角線の特ちょうから長方形がかけものを選ぶ	選択	48.9%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
7	(3) テープを直線で切つてできた二つの平行四辺形の面積の大小について分かることを選ぶ	選択	42.7%
	(4) ひし形の面積は「一方の対角線×もう一方の対角線÷2」で求められることを、2人の会話を参考にして説明するときの求め方を書く	記述	7.5%
8	(1) $\frac{1}{4}$ の図を直すわけとしてまとめた文章に入る数を書く	短答	37.6%
	(2) $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ の計算の仕方を表している図について、一つ分の大きさが何であるのかを書く	短答	54.3%
	(3) 0.75+0.9について、ある数のいくつ分かを考え、整数のたし算に表して説明するときの求め方を書く	記述	39.2%
9	(1) 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	短答	63.8%
	(1) 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	短答	62.1%
	(2) 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	記述	44.3%
(3) 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	短答	35.5%	

授業改善のポイント

具体的な設問例

3

正答率
25.7%

小数の除法の意味について理解しているかどうかをみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第3学年】 A 数と計算

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

【第4学年】 A 数と計算

(4) 小数とその計算に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ) 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算ができること。

3 答えが12÷0.8の式で求められる問題を、下のアからエまでの中からすべて選びましょう。

ア 1mの重さが12kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう0.8mの重さは何kgですか。

イ 0.8Lで板を12m²ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lでは、板を何m²ぬることができますか。

ウ 赤いテープの長さは12cmです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何cmですか。

エ 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていきます。0.8mのリボンは何本できますか。

数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにする

加法・減法及び乗法と同様に、数量の関係を式に表すことを重視することが大切です。指導に当たっては、問題場面をテープなどの図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動や、乗法や除法の問題場面を複数提示することで、問題場面を的確に捉えて立式する活動が考えられます。

例えば、乗法の問題場面と除法の問題場面をそれぞれ表した、テープの図と数直線を合わせた図を比較する活動が考えられます。その上で、□の場所が異なることを確認し、割合に当たる大きさを求める場合には乗法が用いられ、1に当たる大きさを求める場合には除法が用いられることを理解できるようにすることが大切です。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

「かけ算やわり算の意味を考えよう」

実施対象学年
第3・4・5学年

～問題場面の数量の関係を的確に捉えて、立式する～

「平成30年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 小学校」P9～10

国立教育政策研究所ホームページ

平成30年度
全国学力・学習状況調査
授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/jugyo_urei/h30/index.htm



平均正答率
(平均正答数)

48.4%
(7.3問/15問)

平均
無解答率

6.72%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

- ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる (同音異義語) (1-)

平均正答率

90.6%

過去同一問題正答率

82.6%

改善状況

8.0%

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

- ・ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができる (3)
- ・ 場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈することができる (5三)

20.2%

23.0%

-2.8%

16.5%

—

—

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	適切な同音異義語を選択する(物質が変化していく過程を調べる)	選択	90.6%
	適切な語句を選択する(彼はせきを切ったように話し始めた)	選択	34.5%
	傍線部「入っていた」の主語として、適切なものを選択する	選択	33.8%
2	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	短答	64.1%
	話の進め方のよさを具体的に説明したものと適切なものを選択する	選択	56.7%
	スピーチの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	記述	39.6%
3	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	短答	20.2%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
4	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	選択	74.0%
	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	記述	42.6%
5	「いたずらに」の意味として適切なものを選択する	選択	60.2%
	ぼくが「ニケです、子猫の名前…」と言った理由として適切なものを選択する	選択	57.0%
	枠で囲まれた部分があることの効果を書く	記述	16.5%
6	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	選択	51.5%
	漢字を書く(おし量って)	短答	38.2%
	『判じ絵』とは何かと見出しを付けた部分について、内容のまとめで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとめに付ける見出しを書く	短答	45.9%

授業改善のポイント

具体的な設問例

5三

正答率
16.5%

場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈することができるかどうかをみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第1学年】C 読むこと

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

複数の場面を相互に結び付けることによって、場面や描写に新たな意味付けを行う

文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要です。

指導に当たっては、例えば、物語の結末などについて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりして解釈し、それぞれの考えを伝え合う学習活動が考えられます。その際、どの描写と描写とを結び付けて考えるかによって解釈も多様になるであろうことを踏まえ、自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが、文章を深く理解したり作品がもつ魅力に迫ったりすることにつながります。(第1学年)

5三
【文章の一部】の「」で囲まれた部分があることにより、「」のよき効果があると考えますか。あなたの考え、物語の展開と関連させて書きなさい。
なお、読み返して文章を通したときは、線消したり行間に書きおえたりしてもかまいません。

【問題の意図】
「」で囲まれた部分があることにより、「」のよき効果があると考えますか。あなたの考え、物語の展開と関連させて書きなさい。
なお、読み返して文章を通したときは、線消したり行間に書きおえたりしてもかまいません。

課題の改善に向けた授業アイデア例

詳細は下記の二次元コードを読み込むかリンクからご覧ください。

「話の展開を捉えて内容を解釈し、作品を読み味わう」

「令和4年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 (中学校国語)」
P51～53

国立教育政策研究所ホームページ

令和4年度
全国学力・学習状況調査の結果
を踏まえた授業アイデア例

<https://www.nier.go.jp/jugyo/urei/r04/index.html>



平均正答率
(平均正答数)

51.6%
(10.3問/20問)

平均
無解答率

6.02%

改善
が図られた問題
(出題の趣旨)

- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる (14 (1))

平均正答率

70.7%

過去同一問題
正答率

70.5%

改善状況

+0.2%

課題
が見られた問題
(出題の趣旨)

- 素数の意味を理解している (2)
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる (13 (3))

26.3%

26.5%

-0.2%

22.8%

—

—

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
1	$2 \times (-5^2)$ を計算する	短答	62.9%
2	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	選択	26.3%
3	一元一次方程式 $2x = x + 3$ の解について、正しい記述を選ぶ	選択	43.7%
4	半径5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める	短答	28.5%
5	直方体において、与えられた辺に垂直な面を選ぶ	選択	42.5%
6	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	選択	42.7%
7	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	選択	33.9%
8	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ	選択	63.7%
9	一次関数の表からグラフを選ぶ	選択	61.1%
10	y が x に反比例し、比例定数が3のとき、 x の値とそれに対応する y の値について、正しい記述を選ぶ	選択	43.5%

問題番号	問題概要	問題形式	正答率
11	反復横とびの記録の中央値を求める	短答	73.1%
12	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	選択	79.1%
13	(1) 観光客が400000人以上500000人未満の階級の度数を書く	短答	81.8%
	(2) 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	選択	50.8%
	(3) 「600000人以上の観光客が訪れる割合は、北勢地域が、他の4地域の度数の合計よりも多い」と考えられる理由を、グラフの特徴を基に説明する	記述	22.8%
14	(1) 四角で囲んだ4つの数が12、13、17、18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	短答	70.7%
	(2) 四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	記述	24.8%
15	(1) ストープの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフと y 軸との交点Pの y 座標の値が表すものを選ぶ	選択	76.9%
	(2) 18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストープの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	記述	28.4%
	(3) 結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストープの設定の組み合わせとその使用時間を書く	短答	74.0%

授業改善のポイント

具体的な設問例

2

正答率
26.3%

素数の意味を理解しているかどうかをみる問題

学習指導要領における領域・内容

【第1学年】A 数と式

- (1) 正の数と負の数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 正の数と負の数の必要性和意味を理解すること。

2 下の1から9までの数の中から素数をすべて選びなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

素数や整数の性質についての理解を深めることができるようにする

整数の性質について考察する場面において、整数を様々な視点で分類し、1より大きい自然数のうち、1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切です。

指導に当たっては、1から9までの自然数について、それぞれの約数を求め、1とその数以外に約数があるかどうかに着目して分類する活動を取り入れることが考えられます。また、「1は素数に含まれる」と考える生徒もいることから、その後の学習において素数を用いる際に、1は素数に含まれないことを再確認する場面を設定することも大切です。例えば、素因数分解について学習する場面において、仮に1を素数に含めた場合、12を素数の積で表すと、 $1 \times 2^2 \times 3$ 、 $1^2 \times 2^2 \times 3$ のような複数の表し方ができます。一方で、1を素数に含めない場合、 $2^2 \times 3$ ただ一通りに決まります。このように自然数の素因数分解がただ一通りに決まることと関連付けて、1は素数に含まれないことの理解を深めることが考えられます。

このような活動を通して、素数や整数の性質についての理解を深めることができるようにすることが大切です。